

声明文

2010年5月31日

協同組合日本脚本家連盟
理事長 中島丈博

『東京都青少年健全育成条例改正案』に反対します

我々脚本家は、著作物を創作することを業としており、著作物とは、思想や感情を創作的に表現することにより成り立つものであることは、言を俟つまでもありません。

何よりもまず、その根幹たる、思想・感情の領域に行政が介入することに危惧を抱くものであり、東京都で現在審議されている「青少年健全育成条例改正案」に強い危機感を感じております。

今回の条例改正案は、青少年に対する悪質な性行為を描いた図書等の青少年への頒布等を制限するものとのことではありますが、不健全図書等の指定を行うのは、知事が任命または委嘱する青少年健全育成審議会であり、行政による思想・感情への介入の契機となることを危惧します。

また、「非实在青少年」という造語を作ってまで、アニメーション、漫画、ゲーム等を規制しようとする改正案の第7条第2号は、内容も曖昧であり、規制する側の恣意により、如何ようにも解釈の幅を広げることができるように思われます。表現の解釈は、個人個人で幅が異なり、結果として、拡大解釈を招く恐れがあります。

アニメーション、漫画、ゲーム等は、ご存知のとおり、今や日本の輸出産業の一端を担っており、性や暴力表現のみならず、キャラクターの姿態にも十分な注意が払われております。

行政介入によらない、あくまでも脚本家や業界の良識による自主規制こそが、「表現の自由」における健全な規制の形ではないかと考えます。

よって、協同組合日本脚本家連盟は、「東京都青少年健全育成条例改正案」に対し、反対を表明します。

以上